

平成25年度 宜野湾市平和学習派遣事業 派遣報告書



沖縄県宜野湾市



市長あいさつ

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始され、今年度で8回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ64名を派遣し、毎年8月9日に行われる「平和祈念式典」及びその前日から2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでいます。



宜野湾市長 佐喜眞 淳

先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割はいよいよ重要となっています。

さて、国連総会第一委員会で発表した核不使用に関する共同声明に、日本政府が初めて賛同いたしました。今後は被爆国としてのリーダーシップを発揮していくよう期待します。本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器の廃絶を求め続けています。今日では、全世界から平和市長会議に賛同し加盟する都市は年々増え続けており、その数世界158ヶ国・地域、5,860都市にも及んでおり、核兵器を廃絶し、平和な世界を希求する人々の思いが世界各地で高まっています。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約75%が存在しています。市域の約33%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っています。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けています。

また、普天間飛行場へのMV-22オスプレイ配備については、昨年6月に宜野湾市民大会を開催し、政府へ要請行動を行ってきました。引き続き関係機関と連携し配備撤回に向け取り組んでまいります。

戦後68年が過ぎ、戦争体験者が少なくなっている今日、戦争を経験した方々は基本的な教訓を次世代に伝える重要な役割を担っておられます。私たちには悲惨な経験を風化させることなく、正しく継承していく義務があります。派遣生徒が沖縄戦そして長崎の被爆体験を学習することにより、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長していくことを願います。

本市としましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へ語り継いでいく所存です。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念してごあいさつといたします。



目次



実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6
長崎市内視察	7
被爆遺構巡り	8
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	9
青少年ピースフォーラム	10-13
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	14-15
平和への誓い（被爆者代表 築城 昭平）	16-17
その他 資料	17
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校 2年 島袋 雅樹	18
■ 普天間中学校 3年 大田 妃依	19
■ 真志喜中学校 3年 野国 琉生	20
■ 真志喜中学校 2年 城間 唯	21
■ 嘉数中学校 3年 新垣 美緒	22
■ 嘉数中学校 3年 知念 園乃華	23
■ 宜野湾中学校 3年 仲本 光輝	24
■ 宜野湾中学校 2年 仲座 瑠河	25
実施要綱	26-27
平和都市宣言（宜野湾市）	28



実施概要



1. 背景と目的

戦後 68年が経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が少なくなっている今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

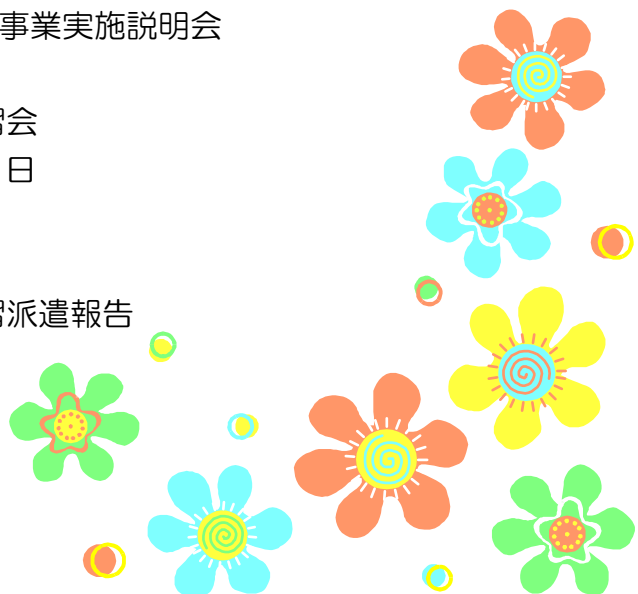
特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかり捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

2. 実施経過

- 平成 25 年 4 月 15 日
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼
- 平成 25 年 4 月 17 日
小中学校長会議において事業実施説明
- 平成 25 年 7 月 16 日
派遣生徒・保護者を対象に事業実施説明会
- 平成 25 年 7 月 29 日
派遣生徒を対象に事前学習会
- 平成 25 年 8 月 7 日～10 日
長崎市で平和学習実施
- 平成 25 年 8 月 29 日
市長及び教育長へ平和学習派遣報告




 団員名簿（平成25年度宜野湾市平和学習派遣事業）


学 校 名	氏 名	学 年
普天間中学校	島袋 雅樹	2年
普天間中学校	大田 妃依	3年
真志喜中学校	野国 琉生	3年
真志喜中学校	城間 唯	2年
嘉数中学校	新垣 美緒	3年
嘉数中学校	知念 園乃華	3年
宜野湾中学校	仲本 光輝	3年
宜野湾中学校	仲座 瑠河	2年
真志喜中学校 教諭	宮里 忠	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	玉城 進吾	事務局

事前学習

長崎への派遣に先立ち、今から67年前、第2次世界大戦において唯一の地上戦が繰り広げられた沖縄戦について、平和祈念資料館学芸員の講話及び常設展示場の資料をとおして学びました。

期 日：平成25年7月29日（月）13:00～17:00

場 所：平和祈念資料館



宜野湾市平和学習派遣団のために、沖縄戦の始まりから終わりまでを平和祈念資料館の学芸員の方が講話をしていただきました。
大変丁寧に教えて頂き勉強になりました。

実際に沖縄戦で使用された爆弾を手にとってみる事ができました。
かなりの重さにみんなびっくりしていました。



常設展示場では案内人に沖縄戦が始まった経緯などを展示資料をとおして詳しく説明してもらい学習することができました。

平和の礎を見学しました。
平成25年6月現在の刻銘者
宜野湾市： 5,428名
沖縄県： 149,291名
全体： 241,227名




 派遣日程(平成 25 年度 宜野湾市平和学習派遣)


月 日/時 間	行 程
8月7日(水)	
7:30	那覇空港国内線 3階：ANAツアーカウンター前集合
9:35	那覇発 (ANA482便にて福岡空港へ)
11:10	福岡空港到着 貸切りバスにて長崎へ(所要約3時間)
12:00	途中、「福岡観光会館はかた」にて昼食
14:30	貸切りバスにて長崎市内視察(◎グラバー園、◎出島資料館)
18:00	「とれとれ旬家」にて夕食
19:30	◎稲佐山ロープウェイ視察
21:00	ホテル着
8月8日(木)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	ホテル発 貸切りバスにて被爆遺構めぐり
9:00	◎平和公園 ◎山里小学校 ◎如己堂・永井隆記念館 ◎浦上天主堂 ◎原爆落下中心地碑
12:00	「園田真珠」にて昼食(飲茶料理)

	青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース)
13:10	ピースフォーラム参加受付(平和会館ホール)
13:30	青少年ピースフォーラム(被爆者体験講話・主催者あいさつ)
15:20	班別交流会(平和会館ホール 15:20~17:00)
17:15	路面電車にて移動

18:00	夕食交流会(長崎新聞文化ホール)
19:50	交流会終了後、ホテルへ
21:00	ホテル着
8月9日(金)	
6:30	ホテルにて朝食
7:45	貸切りバスにて 長崎平和公園へ
10:35	「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」
12:00	「和泉屋」にて昼食(中華セット)

13:30	青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース 13:30~15:30)
16:00	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 見学
17:00	山王神社の一本柱鳥居を見学後、「西洋亭」にて夕食
20:00	ホテル着
8月10日(土)	
6:30	ホテルにて朝食
7:50	貸切りバスにて移動
10:00	◎キャナルシティ博多にて見学
11:30	キャナルシティ博多内にて昼食
12:20	福岡空港着→搭乗手続き
13:55	福岡発 ANA489便にて沖縄へ
15:30	那覇空港着

長崎市内視察（8月7日）

8月7日、現在の美しい街、長崎を見て歴史・文化に触れました。

◎ コース グラバー園 ⇒ 出島資料館 ⇒ 稲佐山ロープウェイ



▲大浦天主堂前にて



▲グラバー園で西洋の文化に触れる



▲出島資料館で江戸時代に
タイムスリップ



▲グラバー園で記念撮影



▲「とれとれ旬家」にて夕食。
みんなのいただきますポーズです

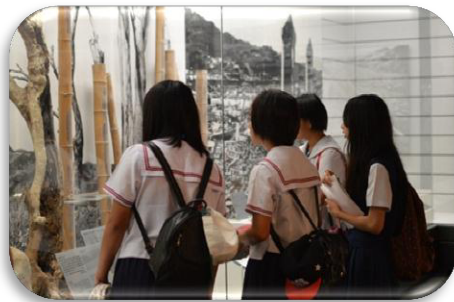


▲稲佐山から眺める長崎の100万ドルの夜景は綺麗でした。

被爆遺構巡り（8月8日）

2日目、原爆資料館を見学しました。たった一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の暮らしについて、また今なお存在する核兵器とその脅威を、資料を通して学びました。

資料館内には、11時2分を指して止まった柱時計、長崎型原爆の実物大模型などがあり、皆、熱心に見入っていました。



現地平和案内人 橋本 富太郎さんを講師に招き、被爆遺構巡りを行いました。

コース：原爆落下中心地⇒浦上天主堂⇒如己堂・永井隆記念館⇒山里小学校⇒平和公園



▲橋本さんに原爆中心地を説明してもらおう



▲浦上天主堂前にて



▲重さ 50 t の鐘楼が 35m も吹き飛ばされた



▲如己堂 「己の如く隣人を愛せよ」 永井隆博士



▲山里小の原爆資料室を見学



原爆によって壊れた家の瓦や溶けたガラスなどが現在も残る当時の地層

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 参列



平和祈念像の前にて



児童合唱「子らの魂よ」



安部総理大臣の来賓挨拶



被爆67周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列しました。
核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。


青少年ピースフォーラム


平成25年度青少年ピースフォーラム

期日：平成25年8月8日(木)～9日(金)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年のみなさんと長崎の青少年ピースボランティアの皆さんと一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

■ **プログラム**

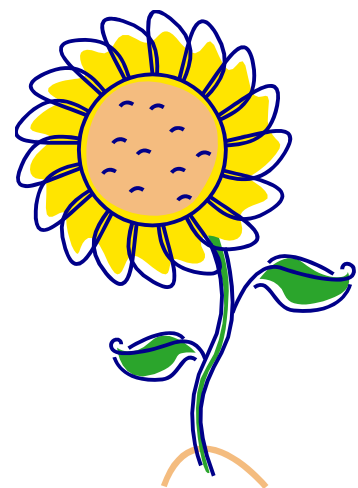
日	時	内 容 <場 所>		
1日目 8/8 (木)	13:30	開会行事 <平和会館3階ホール>		
	14:50	被爆体験講話 八木 道子さん		
	15:10	コース別の参加型の学習により、被爆の実相を学びます。		
	17:00	Aコース あの夏の日を忘れない ～68年前の長崎～ <平和会館3階ホール>	Bコース 被爆建造物等のフィー ルドワーク ～歩いて学ぶ 68年前の長崎～ <原爆資料館周辺>	Cコース 被爆者と語ろう ～68年前の 思いを繋ぐ～ <原爆資料館2階会 議室>
	18:00	交 流 会 (希望団体)		
19:30	<長崎新聞文化ホール>			
2日目 8/9 (金)	午前	平和祈念式典への参列<平和公園内平和祈念像前広場> もしくは、長崎市立桜場中学校の平和集会への参加		
	13:30	コース別の参加型の学習により、平和の尊さについて考えます。		
	15:30	Aコース 平和な世界をつくるために ～届けよう！平和の想いを私から～ 小・中学生対象 <平和会館3階ホール>	Bコース Challenge to the future 小・中学生対象 <原爆資料館 平和学習室>	Cコース 意見交換 ～考えよう僕らに できること～ 高校生対象 <原爆資料館 2階会議室>


 青少年ピースフォーラム（参加団体）


Aコース 参加団体			
都道府県	市町村名	参加者数	引率者等
福島県	郡山市	29	5
	南相馬市	16	2
千葉県	松戸市	22	3
	習志野市	2	2
神奈川県	藤沢市	23	4
広島県	広島市	10	1
沖縄県	那覇市	8	2
	浦添市	10	2
	北谷町	4	3
	北中城村	4	3
	中城村	3	1
	沖縄市	19	3
	宜野湾市	8	2
合 計		158	33

Bコース 参加団体			
都道府県	市町村名	参加者数	引率者等
北海道	函館市	4	2
	旭川市	2	1
	深川市	2	1
宮城県	気仙沼市	3	1
	登米市	5	1
	美里町	9	3
福島県	いわき市	15	3
茨城県	つくば市	6	3
千葉県	浦安市	16	3
	成田市	11	3
東京都	板橋区	23	12
岐阜県	美濃加茂市	4	1
京都府	宇治田原町	4	1
大分県	大分市	18	15
宮崎県	日向市	7	3
沖縄県	石垣市	2	1
	糸満市	18	5
合 計		149	59

Cコース 参加団体			
都道府県	市町村名	参加者数	引率者等
千葉県	習志野市	2	2
東京都	港区	4	3
	品川区	6	2
神奈川県	藤沢市	4	4
京都府	福知山市	3	2
広島県	広島市	7	1
合 計		26	14



青少年ピースフォーラム Aコース (1日目)

■ 被爆体験講話

講師：八木 道子さん（財団法人 長崎平和推進協会 継承部会）

爆心地から3.3kmの鳴滝町で被爆、当時小学1年生（6歳）。家には兄弟弟の5人だけだった。一瞬にして聞こえなくなった蝉の声、異様な空の色、やけどを負った身体に湧く無数のうじ虫と異臭は、今もはっきり記憶にある。

最後に勤務した城山小学校では、1400名余の児童と先生方が命を失くした。

「戦争は最大の差別」という。平和とはどういうことをいうのか、考えていきたい。



八木道子さんからのメッセージ

- 「子供たちをお願いします。最後の被爆者が亡くなる日は必ずきます。亡くなった子ども達の方も生きて、平和のバトンを受け継いでほしい」
- 「最後の被爆者が亡くなったからそれで終わりじゃない。誰も原爆の恐ろしさが分らないということなくすために地元に帰ったらみんなに広めてほしい」

映像を見ながら原爆の恐ろしさ・核兵器の現状について学びました。青少年ピースボランティアの寸劇を見たあと、全国の青少年を13グループに分けて、ピースボランティアの進行で、ペアになった友達の他己紹介を行いました。後半は「平和だと思う時」を個々で書きあげて、グループごとにまとめました。

グループ学習



長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。

他県の青少年とも、積極的に交流を図ることができました。瑠河君は飛び入りで余興に参加（笑）

夕食交流会




青少年ピースフォーラム Aコース (2日目)


長崎市平和会館で「青少年ピースフォーラム」2日目が開催されました。「平和な世界をつくるために～届けよう！平和の想いを私から～」というテーマに沿って参加型学習を行いました。前日と同じグループで、平和ではない時、平和を妨げている事は何か、またそれを解決するにはどうすれば良いかを考え、平和宣言文を作成し、発表しました。13グループ中5グループで宜野湾市の生徒が発表者となり、みんな積極性があり、とても素晴らしかったです。



ピースボランティアの方と仲良くなりました。



ピースフォーラム終了後みんなで記念撮影。



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にて



派遣生徒の皆さんへ
 「長崎での平和学習派遣事業をとおして、平和について考えるいい機会になったと思います。皆さんのその笑顔があれば、自然と周りが笑顔になり平和になると思います。」



長崎平和宣言

68年前の今日、このまちの上空にアメリカの爆撃機が一発の原子爆弾を投下しました。熱線、爆風、放射線の威力は凄まじく、直後から起こった火災は一昼夜続きました。人々が暮らしていたまちは一瞬で廃墟となり、24万人の市民のうち15万人が傷つき、そのうち7万4千人の方々が命を奪われました。生き残った被爆者は、68年たった今もなお、放射線による白血病やがん発病への不安、そして深い心の傷を抱え続けています。

このむごい兵器をつくったのは人間です。広島と長崎で、二度までも使ったのも人間です。核実験を繰り返し地球を汚染し続けているのも人間です。人間はこれまで数々の過ちを犯してきました。だからこそ忘れてはならない過去の誓いを、立ち返るべき原点を、折にふれ確かめなければなりません。

日本政府に、被爆国としての原点に戻ることを求めます。

今年4月、ジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議準備委員会で提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に、80か国が賛同しました。南アフリカなどの提案国は、わが国にも賛同の署名を求めました。

しかし、日本政府は署名せず、世界の期待を裏切りました。人類はいかなる状況においても核兵器を使うべきではない、という文言が受け入れられないとすれば、核兵器の使用を状況によっては認めるという姿勢を日本政府は示したことになります。これは二度と、世界の誰にも被爆の経験をさせないという、被爆国としての原点に反します。

インドとの原子力協定交渉の再開についても同じです。

NPTに加盟せず核保有したインドへの原子力協力は、核兵器保有国をこれ以上増やさないためのルールを定めたNPTを形骸化することになります。NPTを脱退して核保有をめざす北朝鮮などの動きを正当化する口実を与え、朝鮮半島の非核化の妨げにもなりません。

日本政府には、被爆国としての原点に戻ることを求めます。

非核三原則の法制化への取り組み、北東アジア非核兵器地帯検討の呼びかけなど、被爆国としてのリーダーシップを具体的な行動に移すことを求めます。

核兵器保有国には、NPTの中で核軍縮への誠実な努力義務が課されています。これは世界に対する約束です。

2009年4月、アメリカのオバマ大統領はプラハで「核兵器のない世界」を目指す決意を示しました。今年6月にはベルリンで、「核兵器が存在する限り、私たちは真に安全ではない」と述べ、さらなる核軍縮に取り組むことを明らかにしました。被爆地はオバマ大統領の姿勢を支持します。

しかし、世界には今も 1 万 7 千発以上の核弾頭が存在し、その 90%以上がアメリカとロシアのもので、オバマ大統領、プーチン大統領、もっと早く、もっと大胆に核弾頭の削減に取り組んでください。「核兵器のない世界」を遠い夢とするのではなく、人間が早急に解決すべき課題として、核兵器の廃絶に取り組み、世界との約束を果たすべきです。

核兵器のない世界の実現を、国のリーダーだけにまかせるのではなく、市民社会を構成する私たち一人ひとりにもできることがあります。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする」という日本国憲法前文には、平和を希求するという日本国民の固い決意がこめられています。かつて戦争が多くの人の命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を、戦争がもたらした数々のむごい光景を、決して忘れない、決して繰り返さない、という平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。

若い世代の皆さん、被爆者の声を聞いたことがありますか。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ」と叫ぶ声を。

あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。68 年前、原子雲の下で何があったのか。なぜ被爆者は未来のために身を削りながら核兵器廃絶を訴え続けるのか。被爆者の声に耳を傾けてみてください。そして、あなたが住む世界、あなたの子どもたちが生きる未来に核兵器が存在していいのか。考えてみてください。互いに話し合ってみてください。あなたたちこそが未来なのです。

地域の市民としてできることもあります。わが国では自治体の 90%近くが非核宣言をしています。非核宣言は、核兵器の犠牲者になることを拒み、平和を求める市民の決意を示すものです。宣言をした自治体でつくる日本非核宣言自治体協議会は今年、設立 30 周年を迎えました。皆さんが宣言を行動に移そうとするときは、協議会も、被爆地も、仲間として力をお貸しします。

長崎では、今年 11 月、「第 5 回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」を開催します。市民の力で、核兵器廃絶を被爆地から世界へ発信します。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、未だ収束せず、放射能の被害は拡大しています。多くの方々が平穏な日々を突然奪われたうえ、将来の見通しが立たない暮らしを強いられています。長崎は、福島の日も早い復興を願い、応援していきます。

先月、核兵器廃絶を訴え、被爆者援護の充実に力を尽くしてきた山口仙二さんが亡くなりました。被爆者はいよいよ少なくなり、平均年齢は 78 歳を超えました。高齢化する被爆者の援護の充実にあらためて求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、広島市と協力して核兵器のない世界の実現に努力し続けることをここに宣言します。

2013 年（平成 25 年）8 月 9 日

長崎市長 田上 富久



平和への誓い

今年もまた、暑い夏がやってきました。あの日のことは、私の脳裏から消えることはありません。当時、私は18歳、師範学校の2年生でした。毎日、動員学徒として三菱兵器住吉トンネル工場に通っていました。1945年8月9日、夜勤を終え、爆心地から北1・8キロのところにある寮に戻ったのが午前7時ごろでした。主食のカボチャを食べた後、すぐに寝ました。

バリバリバリという音で目が覚め、その瞬間、爆風で吹き飛ばされ、気がついた時には部屋の壁に打ちつけられていました。隣に寝ていた友人は血だるまになっていました。私自身も左手首と左足が焼けただけ、飛び散ったガラスの破片で体中から血が流れ、赤鬼のような姿になっていましたが、はだしのまま20メートルほど先の防空壕まで逃げました。

防空壕の中はすでに人でいっぱいでした。その前には黒焦げになっている人、皮がペロリと垂れ下がっている人、鼻や耳がなくなっている人、息絶えたわが子を抱きしめ放心状態で座り込んでいる母親、全身焼けたらぼうぜんとして立っている人々の姿がありました。まさに地獄絵図でした。

やがて起こった火事に追われ、長与の臨時治療所にたどり着きました。その翌日から疎開先の自宅で療養しましたが、2カ月もの間、高熱と血便が続き、立つこともできず、脱毛と傷の痛みで悩まされました。近くに避難をしている人が次々と亡くなっていく話を聞くと、次は私の番かと恐怖の中で死を覚悟したものでした。私はそのときまだ、放射能の怖さを知りませんでした。

幸いにして、私はこうして生き延びることができました。今、強く願うことは、この大量破壊・大量殺人の核兵器を一日も早く、この地球上からなくすことです。しかし、いまだに核実験が行われ、核兵器の開発は進んでいます。もし核兵器が使用されたら、放射能から身を守る方法はありません。人類は滅亡するでしょう。

わが国は世界で唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶の先頭に立つ義務があります。私たち被爆者も「長崎を最後の被爆地に」をスローガンに核兵器廃絶を訴え続けてきました。それなのに、先に開かれた核拡散防止条約（NPT）再検討会議準備委員会で「核兵器の人的影響に関する共同声明」に賛同署名をしませんでした。私たち長崎の被爆者は驚くというより、憤りを禁ずることができません。

その一方で、世界を震撼（しんかん）させた東京電力福島第1原子力発電所の事故で、新たに多くの放射線被ばく者がつくりだされ、平和的に利用されてきた原発が決して安全ではないことがあらためて示されました。それにもかかわらず、事故の収束もみえないのに原発再稼働の動きがあるとともに、原発を他国に輸出しようとしています。

ヒロシマ・ナガサキ、そしてフクシマの教訓として「核と人類は共存できない」ことは明らかです。政府は誠実かつ積極的に、核兵器廃絶さらには原発廃止に向けて行動してください。

そして今、平和憲法が変えられようとしています。わが国が再び戦争の時代へ逆戻りをしないように、二度とあのような悲惨な体験をすることがないように、被爆者のみなさん、戦争を体験した世代のみなさん、あなたの体験をまわりの人たちに伝えてください。長崎では核兵器の廃絶と平和な世界の実現を願って活動を続けている高校生、若者がいます。彼らが集めた署名は100万筆になろうとしています。

この高校生たちに励まされながら、私はこれからも被爆の実相を次の世代に伝えていきます。核兵器も戦争もない、平和な世界をつくることは、私たちすべての大人の責任です。

ここに、私の願いと決意を述べて、平和への誓いといたします。

平成25年8月9日

被爆者代表 築城 昭平

その他 資料

8月7日～10日までの4日間、市内各中学校の生徒8名が平和学習のため被爆地・長崎を訪れました。原爆資料館を見学後、ボランティアの平和案内人とともに被爆遺構を巡り、青少年ピースフォーラムでは参加した全国の青少年と交流を深め、被爆の実相や平和の尊さを学習しました。平和祈念式典に参列し、原爆犠牲者の冥福と世界恒久平和を祈りました。8月29日には、松川副市長、玉城教育長や保護者の方々へ学習の成果を報告しました。長崎で学んだことをより多くの人に伝え、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを願います。

被爆地・長崎での平和学習を報告



学習報告会



永井隆博士の如己堂を見学



平和宣言文の発表



平和祈念式典会場



実物大の原爆の模型

市報ぎのわん（平成25年10月号）

派遣生徒報告



「私達から世界へ」

普天間中学校 2年

島袋 雅樹

「平和ってなんだろう」という素朴な疑問を持っていました。みなさんの「平和」ってなんですか。

1日目は、長崎市内の観光をしました。長崎の人々はみんな活気があって、元気で平和そのもののような人々でした。こんなにキレイな所に原子爆弾が落とされたとは思えませんでした。夕食ぐらいになると、みんな仲よくなって打ちとけた感じでした。稲佐山のロープウェイから見た夜景はとてもキレイでした。そこで1日目は終了しました。2日目は原爆資料館を見たのちに平和ガイドさんに、たくさんの事を教えてもらいました。貴重な体験でした。昼食を食べて、青少年ピースフォーラムに参加しました。そこで被爆者体験講話を聞いて、とても悲惨な事が起こっていたんだと改めて考えさせられました。そして、「平和」と正反対な事が起きていたんだと思いました。班別交流会では自分が平和だなと思うときを書きました。同じ班の人ともとても多くの意見を出しあえて、仲も深まりました。夕食交流会ではみんなで楽しくいろんな話をしました。

3日目の、平和祈念式典参列の時は、日本国内はともかく、外国からもたくさんの人々が来ていました。長崎を最後の被爆都市にしようという事を国内外にしめしていました。その後、ピースフォーラムの最終日となりました。平和じゃない時について班ごとに意見をまとめて、発表しました。ピースフォーラムでは、とてもたくさんの貴重な体験ができました。自分の考え方や心もいろんな所が一步成長したと思います。

人々の「平和」への考え方はさまざまですが、私が考えた平和とは、「世界が絶えず変わっていく事」です。

なぜ私がそう考えたかということ、世界はいつもたった今も絶えず変わり続けているから世界が変わるのをやめた、変れなくなったのなら、世界のバランスが崩れて、世界の秩序が乱れ犯罪が横行してしまし、戦争にまで行きついてしまうような事が起こりかねないからです。そのようになってしまうと、長崎広島の人々をはじめ世界の平和を願っている人々の努力がむだになってしまうのではないのでしょうか。しかし、その考えは私の考え方であってみなさんにはみなさんなりの考えがあると思います。私は、世界の人々全員の心の中に「平和」があるように努力していきたいです。そして、次の世代、また次の世代とその心を受け継いでほしいです。

派遣生徒報告



「平和学習を通して」

普天間中学校 3年
大田 妃依

私は、3泊4日の平和学習でたくさんの事を学ぶことができました。

初日は、長崎の観光をしました。特に印象に残っているのは稲佐山ロープウェイです。高い所から見た長崎の夜景はとってもキレイでした。

二日目は、被爆遺構めぐりと青少年ピースフォーラムに参加しました。被爆遺構めぐりでは、改めて原爆の怖さ、戦争の恐ろしさを知りました。また、被爆体験講話では、聞いているだけでむね胸が痛むような悲しい気持ちになりました。ピースフォーラムでは、他県の人と交流会をしました。最初はうまくできるか不安もあったけど、いろいろな人と仲を深めながら平和について学ぶことができたのでよかったです。

三日目は、「平和祈念式典」に参加しました。この式典には多くの人々が参列していて、その中には被爆体験者もいました。

私は今まで沖縄戦について色々学んできましたが、この平和学習で沖縄戦のことだけでなく、長崎、広島原爆について学ぶことができました。

68年前までは、ここ沖縄でも戦争があったと思うと悲しく思います。そのことを、現代の人達に忘れさせないためにも、私達が学んできたことを伝え、戦争のない平和な世界をつくっていきたいです。

派遣生徒報告



「平和と当たり前の大切さ」

真志喜中学校 3年
野國 琉生

私は、今回の平和学習派遣事業に参加できた事に感謝しています。なぜなら私は今まで平和とは何か真剣に考えたことがなかったからです。

私は8月7日から10日まで平和大使として平和学習に参加しました。まず初日は貸し切りバスで長崎市内を観光しました。グラバー園や出島資料館、夕食の後には稲佐山ロープウェイに乗りました。とても原爆が落とされたとは思えないほど、緑豊かで驚きました。

2日目は平和公園や山里小学校、原爆中心地碑などを訪れました。特に印象に残っているのは、原爆資料館です。原爆とは実際にどのような構造になっており、どのような被害をもたらすか、そして今もなお核爆弾を所有している国など、改めて原爆の恐ろしさについて知ることができました。

2日目、3日目に参加した青少年ピースフォーラムでは、実際の被爆者の話や、平和である時、平和ではない時などをみんなで考え平和についてさらに知り、関心を深めることができました。その後、長崎新聞文化ホールにて夕食交流会が行われ、班に分かれてさらに交流を深めることができました。

3日目は原爆犠牲者平和祈念式典に参加しました。全国各地からたくさんの方が訪れ、安倍総理大臣も訪れていました。平和式典では、長崎平和宣言や児童合唱などがあり、11時2分には会場の全員で黙とうをしました。被爆者の歌からは、被爆者たちの「もう私達みたいな被爆者を作らないで」という熱い思いが伝わってきました。

私はこの平和学習を通して様々なことを学びました。平和であることの重要性、戦争や原爆の恐ろしさ、そして何より平和の中で生きることができる「今」の素晴らしさを知ることができました。

ある日の朝、突然落とされた原爆によって多くの命が奪われました。そして助かった人も白血病やガンなどの後遺症と戦って必死に生きています。今私達が何不自由なく生活できる今に感謝しなければなりません。そしていつか、最後の被爆者が亡くなったというニュースが流れるでしょう。その時は必ずやってきます。実際の被爆者の最後の話を聞くことが出来る最後の世代の私達がもうこんなことが起こらないように、次の世代、そしてその次の世代に戦争の恐ろしさや当たり前の大切さを伝えていかなければならないと思います。私が今自分にできることを精一杯していきたいです。

派遣生徒報告



「語り継ぐこと」

真志喜中学校 2年
城間 唯

破壊とともに残虐とも殺戮とも無縁の世界。平和な世界。そんな世界を創る事は出来るのか。真に平和な世界とはどんなものなのか。その答えが知りたくて、私は、この宜野湾市平和学習派遣事業に参加しました。

派遣 1 日目、まず長崎の街を観光しました。68 年前に原爆が落とされたという事を忘れてしまうほど、とても美しい街でした。女生徒の中で、二年生は私一人だけでした。いささか不安はありましたが、みなさん本当に優しくて明るい方々でしたので、お話していてとても楽しかったです。

二日目、私達は、原爆資料館に行きました。そこでは、68 年前のあの日、8 月 9 日に、この地で何が起こったのか。その真実を、展示されている数々の展示物が、物語っていました。展示されている無数の写真、そのどれもが、信じられないほど残酷でした。皮膚が焼けただけ、もがき苦しむ。でも、目の前にある現実がどんなに残酷であっても、目をそらす事は出来ませんでした。これが現実なのです。

多くの尊い命を一瞬で奪った原子爆弾。昨日、長崎の美しい街並みを見ていただけあって、目の前に叩きつけられた現実が、より残酷に感じられました。その後のピースフォーラムや夕食交流会では、他県の方々ともたくさん話をする事が出来ました。とても楽しくて、時間が過ぎるのが早すぎると感じたほどでした。

そして、三日目を迎えました。長崎公園へ行き、「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加しました。その後、ピースフォーラムに参加し、各県の方々と意見を交わしました。

私は、「戦争をする」という行為が、とても不思議に思えてなりません。見知らぬ多くの人を巻き込み、沢山の血が流れる。何よりも尊い命を奪う。そこまでして手に入れたいものとは何でしょうか。そのものは、人の命に値するほど、大切なものなのでしょうか。命よりも尊いものが、この世に存在するのでしょうか。人が人でなくなる。まるで感情を持たないロボットのように、何のためらいもなく命を奪う。それが戦争の恐ろしさです。

そして、その恐ろしい戦争は、いまだに世界各地で起こっています。戦争という名の虐殺を無くすために、私達に出来る事は何でしょうか。それは、「知ること」、そして「語り継ぐこと」です。今世界で起こっていることが、どれだけ残酷で、非常であるのか。無知のままではいけないのです。私達は、被爆者の声を聞ける、最後の世代です。だからこそ、被爆者の語る話に耳を傾け、記憶していかなければ、語り継がなければなりません。それが、今の私たちに出来る事なのではないでしょうか。

派遣生徒報告



「平和学習を通して学んだ事」

嘉数中学校 3年
新垣 美緒

今回8月7日から8月10日の平和学習に参加する事になりました。私はそこで、とても貴重な体験をすることができました。まず、長崎への派遣に先立ち、7月29日に沖縄平和祈念公園へ事前学習をしに行きました。沖縄戦で約25万人という人が亡くなり、その亡くなった方々の名前が刻まれた、平和の礎を見ました。沖縄戦になる前の事から戦後まで、たくさんの事を聞く事ができました。そして、沖縄戦の悲惨さを知る事ができました。この沖縄戦は、私のみならず多くの人々に知ってもらいたいと思いました。この思いで、長崎への平和学習をかねて、長崎へ出発しました。

2日目の長崎資料館では、落とされた原爆や、原爆で悲惨な目にあった人の写真など、当時の長崎の状況が感じとれました。そして、ガイドさんによる被爆遺構巡りでは、当時、原爆が落ちた場所や原爆で多くの犠牲者がでた山里小学校などこの目で見て、とても貴重な体験ができました。でも、わたしはこれらを感じて、私自身なにができるのだろうか、考えました。それを考えるのが2日目と3日目にあった、ピースフォーラムでした。沖縄から北海道までの小中学生で、互いに平和の事を話し合い、意見を言い合いました。平和であるためには？というテーマには、それぞれに皆思っている事は一緒なんだなと思いました。そして、3日目の平和祈念式典は、もう二度と戦争を起こしてはいけないという皆の願いをこめて、11時2分に黙祷をしました。あの鳥が羽ばたいた時は、今が平和だととても感じられました。

私は、これらの体験をとおして、何ができるのか考えた所、被爆者の人が言っていた事を思い出しました。「あなた達若者は戦争を見て聞いて感じる事しかできないけど、それでいい。見て聞いて感じた事をあなた達が次の世代へと伝えて欲しい。そして、二度と被爆者をつくらないためにも、あなた達から平和を築いてほしい。」と言っていた事を思い出しました。

私達にできる事。それは、決して戦争をしてはいけない、平和を願い築いていくこと。そして、今なお続いている原爆による症状で苦しめられている人々の事を決して忘れないためにも、次の世代へとつなげていくこと。最後に、この平和学習を通して、今がどれだけ平和か、そして、この平和を永遠につなげていくのは私達からだと。学ぶ事ができました。

派遣生徒報告



「平和に生きる未来のために」

嘉数中学校 3年

知念 園乃華

私は、8月7日から10日まで、長崎平和学習で長崎に行き戦争の事、原爆のことで学ぶことができました。

1日目は観光をして、2日目からは、原爆について学ぶ、被爆地遺構めぐりや、ピースフォーラムなど平和についての学習をしました。被爆者遺構めぐりでは、永井隆さんの如己堂や平和公園や山里小学校に行ったりしました。一番印象的だったのは、山里小学校で聞いた、紙芝居です。その紙芝居には、原爆の恐ろしさが書かれていました。今から68年前には、その紙芝居を聞いた場所に、原爆が落とされて、たくさん子どもたち、たくさんの人々が亡くなってしまったと考えると、すごく悲しく、辛かったです。このような悲惨なことは本当に起こしてはならないな。と感じました。

そして、2日目、3日目であった、ピースフォーラムでは、全国の中学生在が参加し、被爆者講話で、原爆についての話をたくさん聞きました。その話をしてくれた、八木道子さんは、「世界で最後の被爆者が亡くなりました。と近いうちニュースで流れるでしょう。」と言っていました。最後の被爆者が亡くなるということは、原爆を体験した方の話が聞けなくなるということです。そうしたら、誰が原爆・戦争の恐ろしさを語り継がなければならないのでしょうか？それは、今、生きて、たくさん学んだ私たちだと思います。これを語り継がなければ、私たちの未来は、また原爆を落とされてしまうだろうと思いました。それか落とす側になっているのかもしれない。このような事が起きるのは、絶対に嫌です。だから、私たちが語り継いでいかないといけないのです。

その恐ろしい原爆が世界にたくさんつくられている今、私たちが平和の原点となり、未来へつないでいきたい。と思いました。

“平和とは願うものではなく作っていくものだ”

と聞きました。この平和学習をとおして、たくさん学習した私たちが、たくさんの人々へ、未来へと平和をつないでいき、あの恐ろしい原爆が地球からなくなるように、そういう社会にしたいと思いました。このような体験ができて本当に良かったです。

派遣生徒報告



「平和を願って・・・」

宜野湾中学校 3年
仲本 光輝

世の中が平和でありますように・・・

僕は平和を願って、8月7日から10日までの4日間「宜野湾市平和学習派遣事業」の一員として長崎平和学習に参加しました。

一日目、長崎市内を観光、グラバー園では西洋の文化に触れた後、出島資料館へ行き、江戸時代に使用した生活道具や大砲などを見学しました。夜はロープウェイに乗り、日本の三大夜景の一つである長崎の夜景を一望、68年前に原爆が投下されたとは思えない、とてもキレイな夜景で感動しました。

二日目の午前中は、平和ガイドさんと一緒に原爆遺構巡りに行きました。平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂を回り、原爆被害者の体験談や紙芝居、原爆の映像を見たり聞いたりし、戦争の恐ろしさを改めて知り、戦争は世の中にあってはならないものだとつくづく感じました。午後からは「青少年ピースフォーラム」に参加、被爆者の体験講話を聞いた後、班ごとに分かれ、テーマ「平和とは何か」についてグループで考えたり話合ったりし、100個以上の平和な事を書きました。

夜は、夕食交流会があり中学生、高校生、大人を交えて、班に分かれ、自己紹介をしたり、各都道府県の伝統文化の発表などがありました。全国各地の人と触れ合う事ができたこと、今まで知らなかったことを知ることができたこと、普段体験できないことができたのでとても良かったと思います。

三日目の8月9日、10時35分から行われた「平和祈念式典」に参列、安倍総理大臣や外国の方々も参列し、11時2分参列者全員で1分間の黙とう、犠牲者のご冥福を祈りました。式典後、前日の続き「青少年ピースフォーラム二日目」に参加、テーマ「平和じゃない時はどんな時か」について考え、参加者に思いが伝わるように、平和宣言を沖縄らしく工夫し、グループで楽しく発表できた事が良かったと思います。

この平和学習を通して、原爆の恐ろしさ、被害を受けた人々の気持ち、平和を願う人々の気持ち、今まで考えもしなかった事などに気づかされました。平和学習で学んだことを両親、友達、色々な人々へ伝え、「戦争」という言葉が世界中から消えてほしいことを僕は願っています。北海道から沖縄までの人々と交流し、新しい友達もできました。今回一緒に参加したメンバーとも仲良くなり、「楽しく平和な時間」を過ごすことができました。

「戦争反対」「平和賛成」をいつまでも願っています。

派遣生徒報告



「平和への意志」

宜野湾中学校 2年
仲座 瑠河


平和とは一体何なのか。平和な世界とはどういうものなのか。過去に戦争は世界に何をもたらしたのか。僕は宜野湾市平和学習派遣事業を通して、その答えを知りました。

僕達宜野湾市平和学習派遣の生徒は、8月7日から10日までの1週間、長崎で平和学習を行いました。平和学習1日目、僕達平和大使は朝7時30分に那覇空港から長崎へ向かいました。僕は大きな覚悟を胸に、長崎の地に一歩足を踏み入れました。その日は、長崎市内を視察する為、グラバー園や出島資料館、稲佐山ロープウェイなどに向かいました。グラバー園や出島資料館では、長崎の歴史を学びました。夜は、稲佐山ロープウェイで、素晴らしい夜景を見る事ができました。この日は、長崎の良い所を色々と見て回ったので、4日間を共にする他校の生徒達と仲良くなりました。それだけ良いものを見て回ったので、過去に原爆でめちゃくちゃにされていたとは想像できませんでした。


2日目は平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂、原爆投下中心地碑など数多くの被爆遺構をめぐるしました。その一つ一つが、原爆の恐ろしさを物語っていました。その後、青少年ピースフォーラムというものに参加しました。そこでは最初に、被爆者体験講話を聴きました。その話は、想像を絶する恐ろしい体験談でした。68年前の当時は、現在とは全く異なる世界でした。その話は、戦争がどういうものかを語っていました。僕は戦争とは尊い命をただイタズラに奪い、悲しみしか生まれない悪意の魂だと思います。その事実を知り、戦争に対する意識が高まりました。次に、班別交流会をしました。そこでは、他県から来た生徒達と交流しました。意見は人それぞれ違いますが、同じ平和を志す人達でした。その夜はとても楽しい夜でした。

3日目は、長崎平和公園へ行き、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加しました。そこでは、色々と貴重な話を聞く事ができ、平和に対する意志がよりいっそう強いものになりました。その後、青少年ピースフォーラムの続きに参加し、班別で平和について考え、その答えを発表しました。僕たちの班は、心を通わせる事が、平和につながるという答えをこれまでの学習を通して導き出しました。

僕はこの平和学習派遣事業に参加して今を楽しく生きるという事が、どれだけ素晴らしい事なのかを学びました。その素晴らしさを教えてくれた被爆者の方々や亡くなった方々の為にも、戦争と平和を、次の世代へ伝えていかななくてはならないと思いました。今回、戦争や平和について教えてくれた方々には、平和への意志がはっきりとありました。僕達戦争を知らない世代の人間も、彼らのように二度と戦争を起こしてはならないという平和への意志を受け継ぎ、平和な世界を守っていかなくてはならないと思いました。



実施要綱



宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

(派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市内各中学校区から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

(役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切にする人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

(平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。
- (3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。

(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則 (平成17年6月8日決裁)

附 則 (平成24年4月12日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課
日本非核宣言自治体協議会

発行 宜野湾市
市民協働推進課 平和・男女共同係
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1
TEL 098-893-4411 FAX 098-892-7022
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>